

休みの日 地域を歩き 生きていく

—「昨今の学校教育で流行する《主体的・探求的で深い学び》とやらにぶつけるアンチテーゼ」として—

信州・上田仮説サークル やなぎさわかつひろ 柳沢克央

森林組合の理事を務めてはじめて2年目。11月、今年も集金の季節がやってきた。任務は夏の育林作業参加者には5000円(草刈り機持参者には+1000円)を支払い、不参加者からは不参金5000円を申し受けること。私の担当地区の組合員総数は28軒。徒歩圏内。一応の期限は11月末。役員会で担当地区の請求書・領収書を受け取り、事前説明を受けた。これをもとに作業に取りかかる。自身のため、一連のプロセス等を記す。**目指すのは「早い・うまい・高い(労働生産性)」。**

① 去年のやり方が思い出せなかったので、ファイルを見て確認した。幸いにして配布ルートにもとづく名簿はエクセルにしてあった。パソコンを見て、これを基本に動けばよいことが分かった。28軒という作業量に圧倒されそうになったが、まず基本ルートを設定して、そのルート上での作業を淡々とこなしていけばよいことが分かった。個々の変更は、基本ルートが定まれば微調整の範囲だ。じつのところ、去年はこの作業がうまく意識化できていなかった。反復して行くと、より深く、より良く学べることを再発見した。

② 不参金を集金される側に立ってみると、いきなりの集金はきつい。よって、昨年同様に、11月上旬に集金予告を配布し、11月23日(金)、24日(土)に巡回することにした。この巡回では集金とは別に、育林作業の参加者には手当を支給し、受領印を押印してもらうのである

が、こちらには特に予告しなかった。

- ③ 11月10日（土）朝、不参金請求書と「納入のお願い」を徒歩で配布用名簿順にしたがって巡回配布。40分程度。山の紅葉が目映えて美しい。
- ④ 担当地区組合員さんのうち3名が「当日不在なので…」等の理由で当家まで不参金を持参してくれた。家族が受けたので領収書は事後（23日巡回時）渡しとした。
- ⑤ 11月22日（木）夜。エクセルの名簿で巡回順と入出金予定を名簿で確認。入金額、出金額とその合計（不参加者が多いので、不参金額合計>出役手当合計となり、これを役員会に持参する）を確認。他にクリップボード、ボールペン、領収書、…等々を準備。
- ⑥ 11月23日（金）の朝。晴天。NHKの連続テレビ小説終了後の8:15から身支度をして、8:30から巡回開始。紅葉は終わって、山はセピア色系統に変わっていた。10時前におつりがなくなったので、コンビニで缶コーヒーを買って1000円札を調達。なんだかんだで11時頃に終了。不在の家、数軒は夕方に電話をかけて在宅が確認でき次第、出向いて入出金した。24日（土）朝8:30、ついに28軒ぜんぶ完了。**名簿が事務作業の基盤となる**ことを再発見した。
- ⑦ 集金時のスケッチあれこれ。…落語にある「唐茄子屋」等の人情噺を思い出した。
- ・門扉がほぼ閉まっていて留守かなと思いながら、わずかな隙間から入る。チャイムを押すと幸い在宅。手当を渡して門を出ようとしてよく見ると、なんと門扉のすぐ近くにケモノミチのような出入り口があった。ちょっとした「フェイント」である。…こういうことを楽しみつつ学習していく。
 - ・玄関先にクリスマス用のリースがもう飾ってある家があった。感じのいい奥さんだったので、「準備が早いですね～」と言ったら、「いや～、そんなことはないですよ～」と言いながらも、にっこり。微笑んでくれて、ますます感じが良くなった。

・集金が終わった後で「大変ですねえ」とひとこと言ってくれる気遣いがうれしい。「天気がいいですから、いいウォーキングにもなります」などと答えてみる。

・『オイはえらいイイ靴履いてるな〜』『そうですか〜、ありがとうございます。じつは、〇〇さん（相手）に会うために、特別にイイのを履いて来たんですよ〜』（口から出まかせ）

・「今年は都合で注連縄づくり講習会休みますね。来年またよろしく」『そうか〜い。あなたのために個人講習会やったっていいからない』『ありがとうございます。そのときはよろしく〜』

・担当地区内の思わぬところで知らぬ間に新しい家が建っている。地区が少しずつ変化していることが実感できる。

・植木の剪定作業をしている家。タイヤ交換をしている人などが目に入ってくる。軽くあいさつを交わす。季節の変化とそれに合わせる生活を実感。

・庭や玄関回りを見て、その様子からなんとなく「〇〇さん、体の具合が良くないのかな…」

・たとえば、庭の手入れが見事で心底、感動する家がある。このとき、ア. 大げさにほめる。

イ. しみじみとほめる。ウ. 何も言わない。エ. その他…等、いろいろな選択肢を持って自身の言動を適切に決定していく。相手との関係、その場の雰囲気等を総合的に勘案して、瞬間的に判断する必要がある。何でもないような場面だが、じつは重大な判断局面だったりする。盛り上がっている時ほど発言は冷静に。

・『一万円でいいかい?』『そのままもらってもいいんだけど…』『いや〜それはちょっとねえ〜』などと楽しみながら。

・長年、面識があるのに、下の名前の読み方を間違ってしまう（例）「浩一」＝「こういち」と「ひろかず」さん、奥さんから正される。「いいんですよ〜」のあとで、「結婚披露宴のスピーチでも間違えられてねえ〜」などの思わぬエピソードも飛び出してきて、和ませて

もらう。…恥をかきながら学んでいく。

・「お義母さんは元気？」には「はい、お陰さまでなんとかやっています」と即答できるが、
「お義母さん、おいくつになるの？」には「え〜と、昭和〇年生まれだから、…」などと話しながら考える。

・『全部で何軒回るの？』『28 軒です』『たいへんだねえ〜』『大事な仕事ですから』と会話しつつ（ああ、おれ、いま、28 軒も回っているんだなあ〜。大事な仕事をやっているんだなあ〜）と再発見する。

・ひとりでお住まいのご婦人、話したいことがたくさんあるようで、なかなか止まらない。その話が面白いから聞き入ってしまう、終わりそうになるけど、また別の面白い話が始まるので、なかなか終わらない。内容が辻褄合わず支離滅裂だから面白くて、大笑い。ストレス解消になる。だけど、後で思い直してみると、結構まじめな話が混じっていたりして、ほんとうに不思議だ。

⑧ まとめ。よく「役員というのは抵抗があるが、受けてやってみると、けっして無駄にはならないものだ」という話をきく。それは、たとえば、こういうことなのかな〜と少し実感できた気がする。でも、こういうことは、多かれ少なかれ、みんなやっていることだ。要するに「情報処理」だ。…というわけで、地域に根差して常に学び続ける人間でありたいと思った。学校だけが学びの場だと思っている（思い込まされている）ヤツは目を覚ませ！（…と自分自身に言い聞かせる）。

⑨ 川柳でお開き。「人生はすべて修行と思うべし」「役員は人を見る眼を養える」「生きている間に言おう
《ありがとう》」（了）（2018年11月24日（土）6:24 脱稿・きょうは上田仮説サークル11月例会。楽しみだ）